

地球上には自然湖、人造湖をあわせ大小無数の湖沼があり、流出入河川を含め地球上の利用可能な液体淡水資源の大半を占めています。また我々はその水域・流域の多様な資源に大きく依存して生活しており、現在地球規模で起こっている水質悪化や生態系機能の低下は人類の将来を脅かす非常に深刻な問題となっています。2022年3月には国連環境総会にて持続可能な湖沼管理宣言(SLM宣言)が採択され、また2024年11月の国連総会では、滋賀県大津市で開催された第1回世界湖沼会議の開催日である8月27日を「世界湖沼の日」とすることが満場一致で決議されました。現在、琵琶湖をはじめとする世界の湖沼流域管理の経験を生かす活動の重要性が一層高まっています。

1. 湖沼の定義・数と分布

「周囲を陸地で囲まれた水体」というのが湖の通念です。図1-2-1はGlobal Lakes and Wetlands Database (GLWD-Ver1)に示された湖沼・湿地の分布図ですが、それによると湖沼は全球陸地面積(南極大陸および氷河に覆われたグリーンランドを除く)の約270万km²または2.0%を占めると推定されています。また全球の湖沼の総数は、面積が10ha以上の湖で150万、1ha以上の湖で1500万程度、総面積約320万km²、または全球陸地面積の2.4%程度とされています。他方、面積500km²以上を「大湖」と定義した報告によると、世界の大湖の数は253、そのうち188が淡水湖で、日本唯一の大湖である琵琶湖は面積順で129位にあたります。図1-2-1は世界の湖沼と湿地の分布を示す図ですが、このスケールでは五大湖とカスピ海、アラル海、ビクトリア

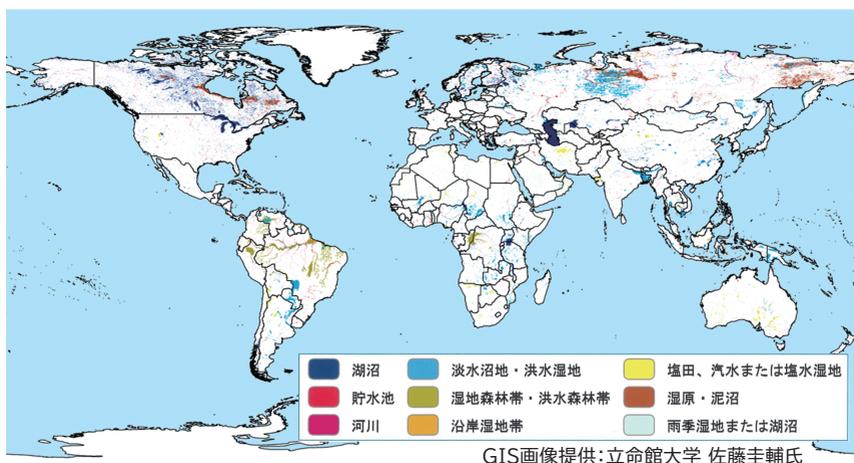


図 1-2-1 世界の湖沼と湿地の分布図

(Global Lakes and Wetlands Database GLWD (Lehner, B. and Döll, P. (2004).
modified using the provided GLWD-3 data set.)



湖が分かる程度で、琵琶湖はもとより全ての人造湖は判別できません。北米大陸の極地の湿地森林帯、南米中央部の沼沢地、バングラディシユの洪水氾濫域はかろうじて判別できます。

2. 湖の標高・水深

湖沼は面積だけでなく標高・水深も様々です。例えば、南米ペルー・コロンビアの国境上に位置するチチカカ湖は標高3800m以上の高地にあり、中東イスラエルとヨルダンの国境上に位置する死海は標高マイナス400m以下の低地に水面があります。水深が最も深い湖はロシアのバイカル湖で1500m以上、水深が非常に浅い湖の代表格はアフリカのサハラ砂漠南端にあるチャド湖で、乾季の水位は最大でも2m程度とされています。

3. 国際(越境)湖沼

琵琶湖は国内湖沼ですが、世界の大湖沼の多くは国際(越境)湖沼であるか、国際(越境)河川を流域に持つ湖沼です。有名なのはアフリカのビクトリア湖はケニア、ウガンダ、タンザニアの3カ国に接し、流入河川上流域にはブルンジとルワンダが位置し、流出河川のナイル河は世界最大の国際河川で数カ国を経て地中海に流出します。図1-2-2には代表的な国際湖沼流域(紫色の部分)と国際河川流域(灰色の部分)が示されています。

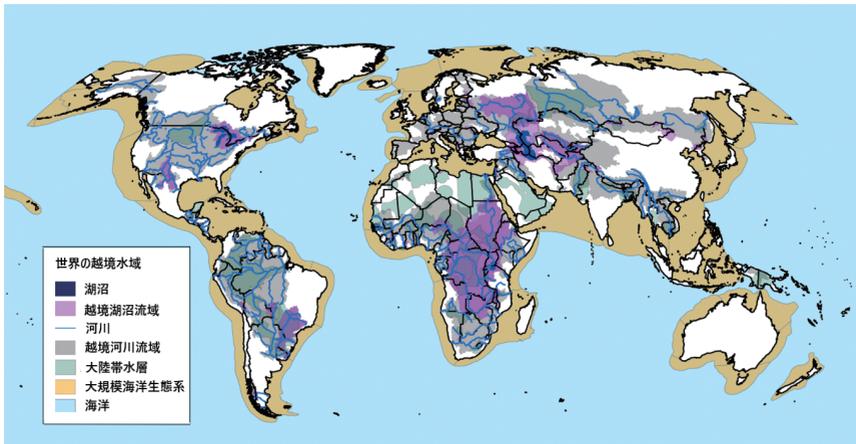


図 1-2-2 世界の代表的な国際湖沼(2016)

(Transboundary Lakes and Reservoirs: Status and Trends. United Nations Environment Programme (UNEP), ILEC and UNEP. P14)

公益財団法人国際湖沼環境委員会 中村 正久